

なくせ核兵器、なくすな9条 被爆60周年を節目に、 医師・医学者の積極的な役割を發揮しよう

反核医師の会 ニュース

第30号

2005年7月31日

核戦争に反対する医師の会

第16回 核戦争に反対し、核兵器廃絶を求める医師医学者のつどい in 名古屋

- 日 時：2005年10月22日(土) 15時30分～23日(日) 15時
- 会 場：名古屋/中京大学・名古屋キャンパス「ヤマテホール」ほか
- 参加費：医師・歯科医師 5,000円、医学生・一般 1,000円、医療関係者 2,000円 (いずれも予定)
- 主な企画 (※これは、現在実行委員会で検討している内容です。変更の可能性もありますので、ご了承ください)

10月22日(土)

▼15:30～

○シンポジウム

「戦争・テロ・核の恐怖から抜け出す平和への道—私たちのなすべきことは？」(仮題)

- シンポジスト：浅井基文氏 (広島市立大学広島平和研究所長)
本 秀紀氏 (名古屋大学法学部教授)
高草木博氏 (原水爆禁止日本協議会事務局長)

○全体会

○レセプション

- ※22日(土)の12:00より反核医師の会全国世話人会が開催されます。
- ※22日(土)の14:00から地元の反核医師の会・愛知の主催でアニメ映画『アンゼラスの鐘』上映会がおこなわれます(つどい参加者は無料)

10月23日(日)

▼9:00～14:00

○講演「医師としての被爆体験を語る」肥田舜太郎氏 (日本被団協原爆者中央相談所理事長)

○分科会

第1分科会・核兵器廃絶をめざして

報告予定者：新原昭治氏 (「非核の政府を求める会」核問題調査専門委員会委員) ほか

第2分科会・原爆症とは何か—集団訴訟勝利、被爆者の救済のために

報告予定者：間間 元氏 (全日本民医連被ばく問題委員会委員長・医療生協きたはま診療所所長)
沢田昭二氏 (物理学者・名古屋大学名誉教授)
樽井直樹氏 (原爆症認定訴訟名古屋弁護団事務局長)

第3分科会・憲法・国際法と日本の戦争責任

報告予定者：高橋 信氏 (名古屋三菱・朝鮮女子勤労延身隊訴訟を支援する会代表世話人)
池住義憲氏 (自衛隊イラク派兵差し止め訴訟の会代表)
飯室勝彦氏 (中京大学教授・中日新聞論説委員)

第4分科会・劣化ウランの被害と劣化ウラン弾禁止運動

報告予定者：嘉指信雄氏 (神戸大学教授 NO・DUプロジェクト代表)
小野万里子氏 (「セイブ・イラクチルドレン・名古屋」代表)
カリド・イドリッシ氏 (イラク・バスラ教育病院整形外科医)
斉藤みち子氏 (愛知県保険医協会副理事長)

医学生・若手医師の交流企画

▼14:00～

○全体会・閉会

NPT再検討会議 開かれる

五月二日から四週間にわたって第七回NPT(核不拡散条約)再検討会議が開催された。会議には日本から約一千人が参加。各地の反核医師の会からも医師、歯科医師が地域の代表団に

加わり、米国民に核兵器廃絶を訴えるとともに、パレードや各国政府への要請、集会への参加、世界各国からの参加者などの交流をおこなった。今回の再検討会議では、先制攻撃戦略と核使用戦略を国家政策とする米国・ブッシュ政権の横暴な態度により二〇〇〇年の合意が台なしにされたが、核兵器廃絶を求める流れが、世界各地に広がっていることが示された。

IPPNW(核戦争防止国際医師会議)は、NGOとして会議の内外で多彩な活動に取り組んだ。一日のニューヨーク・セ代表団の一員として参加

は、被爆者代表をはじめ他のNGOとともにNPT再検討会議に対する意見表明をおこなった。

反核医師の会・常任世話人会の被爆者医療担当チームでは七月三日、東友会の山本副会長と村松相談員を招き、被爆者医療を巡る諸課題について懇談した。被爆者健診では、健診項目が昭和三十三年の実施以

被爆者医療 の諸課題に ついて懇談

した反核医師の会の常任世話人である山上絃志氏、松尾洋一郎氏から報告が寄せられたので紹介する。(二面、三面に関連記事)

降見直しが行われておらず、腹部超音波検査や内視鏡検査等、放射線被爆のない検査の実施や、現代医療の水準にあった健診内容への見直しが求められている。また、被爆者からは安心してかかる医療機関を求める声が多く、被爆者に被爆地の地図を示しながらの丁寧な問診などが喜ばれ重要であることが紹介された。被爆者認定訴訟では、初めてC型肝炎との関連性が認められた東裁判判決の内容や各地の訴訟運動、今後の訴訟運動について交流した。訴訟運動においては、訴訟に立ち上がることを決意したところ、新聞報道で実名を紹介されたため訴訟当日に取り下げられた事例や親族からの反対にあい訴訟を断念した等の事例が紹介され、被爆者のプライバシー問題など、訴訟運動の厳しさが伺えた。その他、介護保険に関する問い合わせの増加に伴い、被爆者向けのパンフレットを都内の各介護保険施設に設置するなどの取り組みも紹介された。なお、今年十月に実施される介護保険法「改正」に伴い、従来被爆者健康手帳の提示により無料となっていた居住費、食費が原則全額自己負担となり、被爆者への助成の重要性が訴えられた。

兵器廃絶の明確な約束の実行を！

再検討会議に日本から約一千人が参加



マンハッタンに響く

核廃絶の声

大阪・山上紘志

原水協に加盟する団体や個人の一〇〇五年NPT再

参加レポート

「いま、核兵器の廃絶を！」
 「核兵器廃絶の明確な約束」の実行を求めよう！を合言葉に五グループに分かれて四月二十七日から三十日にかけて順次訪米し、五月一日にニューヨークで合流した。

第一グループの各班はそれぞれハンフォードの旧核

施設群を視察し、被爆した現地住民たちと懇談したり、ネバダの核実験場、ワシントンのスミソニアン宇宙博物館でエノラゲイを見て来た。保団連の代表として、千葉の松尾洋一郎氏と筆者は、第二グループで直接ニューヨークに着いた。

まらなままに二日に国連本部で開催された。二〇〇〇年の前回は、核兵器廃絶への明確な約束、包括的核実験禁止条約（CTBT）の早期発効など核軍縮への十三項目で合意していた。しかし、米国の核戦略が障害となり、昨年の準備委員会提案された議題案が二〇〇〇年の再検討会議の「最終文書」に触れて

対ゼロで採択している。この唯一の被爆国の政府代表者として「恥ずべき」であった。

「最終文書」の不採択は実に残念である。しかし国際共同行動の四万人の参加者、被団協による国連本部内での初の原爆展、各国代表も招いての連日の学習会や講演会など、NGOの人たちの活躍は多岐にわたった。世界各国から集まったNGOは約千七百人で、過去最高であった。秋葉市長は「私たちは多数派だ」と繰り返して訴えた。国際社会では核廃絶の声は多数派である。その声をさらに広げ、それを実現するための連帯行動をとることが緊急の課題である。

核廃絶を訴え、

ニューヨークを四万人パレード

千葉・松尾洋一郎



NPT（核不拡散条約）二〇〇五年再検討会議へ向けて、二〇〇〇年に成され

た「核兵器廃絶の明確な約束」の実行を求め、小雨降る中、ホテル前の地下鉄駅前で早速街頭署名活動をおこなった。宗教者達の太鼓やうたごえの会の歌の中で「Please sign for Peace!」の呼びかけに、ニューヨークの二百筆の署名を集めた。

日本原水協・高草木事務局長の開会挨拶の後、会場提供者のトマス・ミラー司教が「原水協のみならずの活動は大変大切なことである」との歓迎の言葉があった。

政府代表、米反核リーダーなどが公開シンポジウム

午後からは、世界最大のセント・ジョン・ザ・デイ

「二〇〇〇年のNPT再検討会議での『明確な約束』

被爆60年、核兵器廃絶 NPT再検討会議の結果と核廃絶



「核兵器の廃絶を」訴える横断幕を掲げての行進。沿道からの参加も含め四万人を超えるパレードとなった



を守る事が重要であり、核保有国は段階的に核軍縮を実施して欲しい。五ヶ国による新たな核の開発を止めるべきである。さらに安全の保障として、非核保有国への核の不使用を約束し、核エネルギーにおいて

「核兵器の廃絶を」訴える横断幕を掲げての行進。沿道からの参加も含め四万人を超えるパレードとなった

横断幕を掲げ、セントラルパーク・ブレイクランドに向け出発した。一千人を越す日本人達と三十数カ国からの参加者で、どこからこんなに大勢の人達が集まってきたのかビックリするほどの大ヒューマン・パレードとなった。沿道からの飛び入りもあつたりで、四万三千人の行進となった。あとでわかったことであるが、メキシコのある軍縮大使も国連本部前から大使館スタッフと共に最後まで歩かれたそうである。セントラルパークに終結した時には、足は棒になっていた。秋葉広島市長、伊藤長崎市長も演説され、「二日からのNPT再検討会議が『明確な約束』の実行に向け、確かな一歩となるようみんなの力で成功させよう」と呼びかけた。高草木氏は、「今回のNPT会議後ドアルテ氏へ提出した五百三万八千八百筆の署名の中には、全世界一千以上の首長・議員が含まれている」と報告した。

二〇〇五年核不拡散条約(NPT)再検討会議が五月二日からニューヨークの国連本部で行われた。この再検討会議は「核兵器の全面廃絶に対する核兵器国の明確な約束」をはじめとする二〇〇〇年再検討会議の合意を確実に実行することが最大の課題であった。

ど、核戦争の危機が依然として続いている。一刻も早く核兵器の廃絶を求め、被爆者の願いが世界の多くの人々の心をとらえた。その願いがNPT再検討会議前日の五月一日、ニューヨークで行われた核兵器廃絶と戦争終結を求める集会に結集した。現に戦争をしている国であり、最大の核保有国であるアメリカの中

責任を問われるのは核超大国の横暴であろう。再検討会議の数ヶ月前から、アメリカの当局筋は二〇〇〇年合意の「死文化」を公言していた。核兵器廃絶の明確な約束どころか、二月には非核保有国に対する核兵器不使用を条約化することも拒否する方針を決めたと報道されていた。とは言え、二〇〇〇年合意を反故

〇年合意であった。ごく一部の国だけが核兵器保有を認められるという不平等が歴史の試練になく耐えられるものでないことは明らかである。希望を持てる動きもある。そのひとつは今回のNPT再検討会議の直前にメキシコ市で非核地帯国際会議が開かれ、非核地帯を世界に広げる宣言が採択されたことである。すでに

街を揺るがしたパレードと大集会
翌五月一日、朝からの雨が心配されたが、一時間前にはカラリと晴れわたたり、マンハッタン東一番街と二番街から「Abolition of Nuclear Weapons Now」の

しかし、NPT再検討会議は合意文書をまとめることもできないで、四週間の会期を終了した。これは核兵器廃絶を求める世界の世論にそむくものであり、大変残念な結果であるといわなければならない。

心都市ニューヨークで核兵器廃絶と戦争を止めることを求める集会が世界の民衆によって大規模に行われたことは歴史的な意義を持つといつてよいと思う。

にするには許されないことである。NPT体制とは核保有国五カ国の核兵器保有を認める一方で、非核兵器保有国への核拡散を禁止する不平等体制である。その不平等に対する新アジェンダ連合を先頭とする諸国民の活動と核兵器廃絶を求める諸国民の世論によって実現したのが二〇〇

に南半球はほぼ完全に非核地帯となっている。最近ではベルギー上院が欧州非核地帯の創設を提唱する決議を採択した。非核地帯の拡大は核兵器廃絶の推進力になることは間違いない。

被爆六十年の後半、原水爆禁止世界大会を大きく成功させることをはじめとして、核兵器廃絶の世論と行動を大きく広げることがとりわけ重要になっていると考える。(核戦争に反対する医師の会・事務局 長 平山武久)

NPT再検討会議の結果と核廃絶

ことしは広島・長崎被爆六〇年の年である。被爆者はもとより、世界の多くの人々が核兵器のない世界の実現を求めているにもかかわらず、いまだに核兵器が地球上に数万発もあつた。しかも、アメリカが核兵器の先制使用も辞さないと言言するな

二〇〇〇年合意の実現に向けた新たな合意をつくれないう事象を招いた原因は色々あるが、もつとも

長 平山武久



パレード後のセントラルパーク内での集会でブッシュ大統領に扮する人

各地の反核医師の会から

「戦争中毒」の治し方

—あなたにも出来ること あんなこと—

第十七回核戦争防止和歌山県医師の会総会

核戦争防止和歌山県医師の会は六月二十五日に第十七回総会を開催した。

治し方—あなたにも出来ること—あんなこと—と題した講演会を開催、百人が参加した。

昨年度の活動の特徴としては、反核平和を求めめる他団体との共同行動として、世界平和市長会議が提唱した「二〇二〇ビジョン」への賛同要請を県下五〇の全自治体の首長および議会宛に行い、九議会在国への意見書採択した。また、広島への平和訪問旅行で、広島福島生協病院院長の齋藤先生と原爆医療問題の学習懇談会を行い、平和企画への医系学生の参加援助を行う基金も創設した。

総会後、「戦争中毒」を翻訳されたきくちゆみさんを招いて、「戦争中毒」の



講演する、きくちゆみさん(上)。「憲法9条は平和の力」と訴えるアレン・ネルソンさん(下)



講演する、アレン・ネルソンさん(下)

をみたことだという。そして9・11が起り、なんとしても戦争を行わせないために、「グローバルピースキャンペーン」を始めた。大きく広がりをアメリカを中心に五回の新聞への意見広告を実現させた。

きくちさんは、身近なところから、難しく考えずに、出来ることを出来るように始めようと、自分の経験からユーモラスに話された。

総会と同時進行で上映した「テロリストは誰？」(講演会講師プロデュース)にも五〇名以上の参加があった。

元米海兵隊員 アレン・ネルソン氏の講演会開催

核戦争を防止し平和を求め茨城医療人の会

核戦争を防止し平和を求め茨城医療人の会は六月十九日、第二回総会と、元アメリカ海兵隊員アレン・ネルソンさんの平和講演会を開催した。

昨年四月に発足した会は「被爆体験を聞く会」やIPPNW北京大会への代表派遣などをおこなってきた。総会では被爆六十周年の今年、市民の健康を守る医療の専門家としてIPPNWの呼びかけに積極的に応え、核兵器の廃絶と平和を求める運動をさらに大きく広げていくことを確認した。

総会記念行事は県内の平和諸団体とともに実行委員会をつくらせて平和講演会を準備してき

ピース・フェスティバル CHIBA2005が開催

千葉県平和事業実行委員会

七月二日(土)、千葉市内において、核戦争防止千



昼の部で講演する井上ひさしさん

「核兵器廃絶、被爆の実相と被爆者の実情を伝えよう」をテーマに〇二年から毎年開催されており、今年も四回目。実行委員会参加団体

の呼びかけに積極的に応え、核兵器の廃絶と平和を求める運動をさらに大きく広げていくことを確認した。総会記念行事は県内の平和諸団体とともに実行委員会をつくらせて平和講演会を準備してき

も初回の二倍となった。昼と夜の二回、それぞれ映画「父と暮せば」の上映と講演、原爆症認定裁判の報告と支援の訴えが行われ、昼の部は作家の井上ひさし氏が、夜の部は東京大学教授で「九条の会」事務局長の小森陽一氏が講演を行った。

◇完成披露上映会予定◇

日時	会場	備考 (チケットのお求めについて: 製作協力券1枚1,000円を下記までお申込み下さい)
9月9日(金)	「ブリックホール」(長崎)	製作委員長崎事務局/長崎県映画センター TEL 095-824-2974 FAX 095-824-2958
9月16日(金)	「新宿明治安田生命ホール」(東京)	製作委員会本部/ (有) 関西プロデュースセンター TEL 075-581-0066 FAX 075-581-5312
9月21日(水)	「アバンティホール」(東京)	製作委員会本部/ (有) 関西プロデュースセンター TEL 075-581-0066 FAX 075-581-5312

◇自主上映会予定◇

日時	会場	備考 (主催者・連絡先等)
9月25日(日)	富山県教育文化会館ホール(富山市)	主催: 「アンゼラスの鐘」上映実行委員会とやま後援: 富山県、富山県教育委員会、北日本新聞社、NHK、KNB、BBT、チューリップテレビ
12月10日(土)	練馬公民館ホール(東京都練馬区)	主催: アンゼラスの鐘製作を支援する練馬の会後援: 練馬区・練馬区教育委員会

＜お問い合わせ先＞ 「NAGASAKI・1945～アンゼラスの鐘～」製作委員会事務局
【本部】 有限会社関西プロデュースセンター
〒607-8354 京都市山科区西野小柳町69-1 TEL.075-581-0066 FAX.075-581-5312
e-mail: tetsu999@skyblue.ocn.ne.jp 公式ホームページ: http://nagasaki1945.info

「NAGASAKI・1945～アンゼラスの鐘～」
広島・長崎が人類最初の核兵器の犠牲となつてから今年で60年になります。
この非人道的な兵器は、21世紀の今日もなお世界に3万発も保有され、多くの人々の命を危険に晒し続けています。被爆者は高齢となり、被爆体験の風化も急速に進みつつあります。こうした状況の中、長崎の爆心地に近い浦上第一病院(現・聖フランシスコ病院)で自ら被爆しながらも医療活動を続けた医師、秋月辰一郎氏を主人公としたアニメーション映画「NAGASAKI・1945～アンゼラスの鐘～」の製作が企画され、同時にこれを支える市民運動「製作支援の会」も活動を開始いたしました。
反核医師の会では、この作品の製作支援活動を通して原爆の恐ろしき、平和の大切さを次世代へと語り継ぎ、全世界から核兵器を完全になくす運動をより大きなものにならしたいと願っています。